

# 2025年度 第1回 入学試験問題

国語 (50分)

解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

一 次の——線のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

1 全權をユダねる。

2 アマダれを聞く。

3 神社にサンパイする。

4 時間外キム。

5 雪がフる。

6 イバラの道。

7 時計のビヨウシン。

8 マドベに立つ。

二

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。（句読点や記号も一字と数えます。）

人間は比較せざにはいられない生き物です。足の速さや、模試の成績や、餃子の売上げや、住みたい街など、とにかくランキングを作りたがります。そして、自分が上位を占めることができれば、それなりに嬉しく、誇らしく思い、身近な人物が自分より上位を占めれば、素直にすごいなあと感心する一方、うらやんだり、やっかみを覚えたりします。

人と比べるな、比較なんてしない方がいい、というアドバイスほど、言うのは簡単だがするのが難しいことはないでしよう。比較をするなとは言いません。あるいは、それは言うだけ無駄ですので、これから、比較に関連する区別を導入して、<sup>①</sup>みなさんの思考を上書きします。

それは、「記述のランギング／優劣のランギング／存在のランギング」というランギングの区別です。私たちはいつでも自分と他人とを比較してしまうわけですが、この区別を心にとどめておくだけで、比較が生み出す嫌なところを少しでも避けられるようになると思います。この節では、「記述のランギング」と「優劣のランギング」を紹介して、次の節で「存在のランギング」を導入します。《A》

私たちが人を比べることができるのは、そもそも世の中には、ひとりとしてまつたく X という人間がないからです。身長、体重、手足の長さ、髪の毛や目の色、耳や指先の形、視力や走力、好きな食べ物、生まれて初めて観た映画、涙を流した

小説、夕立で濡れたときに一番好きな匂いがする地面の素材と、いくらでも異なる観点から人々を区別することができます。これがランディングです。たとえば、クラスメート全員の身長を測り、低い方から高い方へ、「背の順」で並んでもらうことができます。『C』

それぞれの人が特定の身長を持つていて、そしてそれらの身長の値を比較できる、というのは単なる事実です。単なる事実を記して、述べる方法のひとつなので、身長のランキングは「記述」のランキングです。期末テストの成績や、八〇〇メートル走のタイムや、さくらんぼの種を口から飛ばせる距離など、これらはすべて単なる事実ですので、これらの値にもとづいて記述のランディングを作成することができます。『D』

「単なる事実」と強調しているのは、私たちはこれら記述のランキングをすぐに「良し悪し」や「優劣」のランキングと混同してしまうからです。『E』

単なる事実と価値が異なる、あるいは、事実の記述と、<sup>(2)</sup>価値の判断が異なるというのは、哲学・倫理学における基本の発想です。「Gさんの身長は一七〇センチだ」は単なる記述ですが、「Gさんの身長は一七〇センチあつた方がいい」と良し悪しの要素を加えるのが価値判断です。

ほとんどの事実の良し悪しは、そのときどきの状況や目的によつて変化します。良し悪しは□Y□なのです。たとえば、身長は高い方が良い、と思われるかもしれません、そうとは限りません。競馬の騎手やボートレーサーになりたい人たちにとっては、あまり身長が高いと体重の調整が難しく、不利になりますので、むしろ低い方が良いかもしれません。身長自体に良し悪しが含まれているわけではなく、私たちがそこに何らかの意義を見つけて、身長の違いを優劣として解釈するのです。期末テストの成績も、高い方が良い場面があれば、そうでない場面もあるでしょう。医師になることを目標としている人と、パン職人になることを目標としている人では、成績をどう評価するかがまったく違つていいはずです。

これまでの議論をまとめると、記述のランキングは単なる事実関係に過ぎませんが、そこになんらかの価値を加えると、優劣のランキングが重なつて見えます。記述のランキングは事実にもとづいているので、誰にでも共通するものですが、優劣のランキングは、それぞれの人の価値観や目標によつて異なりますので、どこでも一律に同じではありません。しかし私たちはすぐに、いつでもどこでも、背は高い方が良い、足は長い方が良い、目は大きい方が良い、偏差値<sup>偏んざち</sup>は高い方が良い、給料は高い方が良い、などと思つてしまひます。状況次第ではそうではない、そして自分自身がそうではないかもしません。競技も□Z□も大歓迎です。同じ評価軸で素晴らしい

しい結果を出す人が讃められる、賞賛されることも大事です。重要なのは、すごい人だから「評価する」ことと、同じ人間だから「尊重する」ことの区別です。これから見ていくように、すごい人だろうがすぐくない人だろうが、人間として同じように尊重されるべきだからです。

(和泉悠『悪口ってなんだらう』筑摩書房より)

問一 線①「みなさんの思考を上書きします」とありますが、「上書き」するとは、どういうことですか。最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、一つの視点にしばられることなく、多様な視点を持つこと。
- イ、目上の人からの意見を聞くことで、自分の意見をなくすこと。
- ウ、新しい考え方を知ることで、それまでの考えを改めること。
- エ、上級者の真似<sup>まね</sup>をして、初心者が自分のふるまいを変えること。

問二 空らん  X に入る言葉をこれより後の文章中から一語で探し、抜き出して答えなさい。

問三 次の文は文章中から抜き出したものです。この文を入れるのに最もふさわしい場所を『A』～『E』の中から選び、記号で答えなさい。

そう、なぜかランキングにすぐ価値を読み込んでしまうのです。

問四 線②「価値の判断」とあります。次のア～オの中から「価値の判断」にあたるものと選び、記号で答えなさい。

ア、A君は目鼻立ちが整つていてかっこいい。

ウ、動物の中で最も大きいのはシロナガスクジラだ。  
オ、コンクールで優勝できなかつたのは残念だ。

イ、Bさんはもつと勉強時間を増やした方が良い。  
エ、今年の夏は猛暑日が二十日間あつた。

問五 空らん□Yに入る最もふさわしい言葉を次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、流れもの イ、別もの ウ、たまもの エ、水もの

問六

空らん□Zに入る最もふさわしい言葉を次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、ごえつどうしゅう 吳越同舟 イ、せつさたくま 切磋琢磨 ウ、せんさばんべつ 千差万別 エ、他力本願

問七

＝線「比較が生み出す嫌なところ」とはどのようなところですか。文章全体を読み、筆者の主張をふまえた上で、次の文の空らんに当てはまる十七字の言葉を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

比較した後の結果に価値の判断を加えると、相手が誰だれであつても（  
という考え方ができなくなるところ。

問八

本文の内容をふまえて、後の設問に答えなさい。

あるクラス全員で生徒の通学時間の長さを比べたら、学校まで電車を乗りかえて二時間かかるA君は最下位だとわかり残念がつていた。「記述のランギング」と「優劣のランギング」の両方の考え方を使ってA君をはげますとしたら、あなたはどうのように説明しますか。

( )

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。（句読点や記号も一字と数えます。）

三月に閉校の決まつていた私立萌木女学園大学では、卒業が保留となつた学生の救済のために特別補講を行うこととなつた。十名ほどの学生が寮に入り共同生活を送つていて、「朝子」と「夕美」はこの寮のルームメートである。この日、校内を散策中「夕美」が倒れ、校医の「湯本先生」がヨボヨボとやつてきた。

「すみませーん、ちよつとこけちやつて。大丈夫でーす」  
 夕美ちゃんは立ち上がり、スカートのすそをパタパタ叩いた。細かい落ち葉や土汚れがついてしまつていて。私は彼女の後ろに回り、A 髪や背中のゴミを払い落としてやつた。振り向いて「ありがとー」と笑う様子は、本当になんでもなさそうに見える。

「湯本先生が車椅子使つた方がいいんじゃないですかー」なんてにこにこ笑いながら言つているのを見て、B 床に崩れてしまつた。  
 けれどその翌日に、夕美ちゃんはまた倒れた。

その時は私たちの部屋で、ふたりきりだつた。それまでにいくらか打ち解けていた私たちは、何かしょもないことでケラケラ笑つっていた。すると、いきなりB 床に崩れてしまつた。

「え、ちよつと」  
 憮て駆け寄ると、相手はにこつと笑つて、「あー、何か力抜けちゃつた……」と暢気に言つている。私まで脱力し、床に座り込む。C

「いや、それ、絶対どこかおかしいから。病院行つた方がいいから」「病院ならだいぶ行つたよ、あっちこち」「え？」

「なんかね、ナルコレプシーって病気なんだつて」床の上で体育座りをして、暢気そのものの口調で言う。思わず床に両手をついた。

「たまーにね、今みたいに力が抜けちゃうの」

「何それ、危ないじやん。<sup>①</sup>こないだのもそうだつたの？」  
超危ないじやん。<sup>②</sup>あんな B 倒れてさ、もし地面に尖つた石とか枝とかあつたら、大怪我するじやん。顔とか……眼とか……」

考えただけでも恐ろしい。

「心配させてごめんね。<sup>②</sup>倒れる方は最近ずつとなかったから、ちょっと油断してた」相変わらずにここにこ笑いながら、夕美ちゃんは言う。「あのね、あんまり感情を揺らしちゃいけないらしくてね、気をつけてはいたんだけど、こないだのいきなりの工事の音はびっくりしたなあ。やられたわ」

「何それ、どういう仕組みなの？」

「私にもよくわかんない」あっけらかんと夕美ちゃんは言う。「まだ、今イチよくわかつていらない病気なのよね。なぜか日本人にはわりと多いらしいんだけど。いきなり脱力しちゃうのは、カタプレキシーつていって、すぐに元どおりになるんだけど、メインの症状は睡眠発作<sup>しょうじょう</sup>でね、とにかくいきなり寝ちやうの。電車に乗つてもね、倒れると危ないからなるべく座るようにしているんだけど、気がついたら終点、なんてザラよ。山手線なんか、何周したんだか、わからなくなる。一人で遠出なんて、危なくてできないよ。学校でもね、体育の最中でも寝ちやうくらいだから、授業中だろうが、試験中だろうがおかまいなし。だからさー、入試とか、落ちまくつたよー。うちの学校の時だけは、何とか解答欄を埋めた後で寝たから、ギリセーフだったけど、ほんと危ないところだつたわ」

ああ良かつた良かつたと言つてはいる。良かつたじやないよ、ほとんどアウトだよと思うけど、そう突っ込める空気でもなれば立場でもない。

「……それは……大変だつたね」

他に言いようがなくてそうつぶやくと、夕美ちゃんはぱたぱた手を振つた。

「やだ、そんな深刻になることないよー、別に命に関わるわけじやなし」そう言つてから、ふと視線を落とす。「……たゞき、こんなじやどうせまともに就職もできないじやない？だから卒業できなくともいいかなあって思つてたの。いひつてか、仕方ないなつて。家でできる仕事を模索するしかないかもつて思つて、それなら、別に大学卒業する必要ないじやない？」

胸の内側が、ヒリヒリ痛んだ。

——こんなじやどうせまともに就職もできない。  
それは、今の私が身に沁みて思つてることだつた。

百パー セント X 業 Y 得だけれど。朝、きちつと定時に起きることなんて、社会人にとっては当たり前、それができないなんて

論外だ。

遅刻魔は、色んな物を無くす。信用とか友達とか大学の単位とか。だから将来の夢さえ無くす。いつも慌てていて、時間もない。余裕もない。だから身だしなみもどんどん適当になつていき、女の子としての自信もないから、彼氏を作ろうなんて気も無くす。

どうしてこんなに駄目なんだろうと、ため息がでる。他の多くの人たちが普通にできることが、どうして私にはできないのだろうと。

不本意な女子大生をやつていた四年分、私の中には劣等感れっとうかんだと自己嫌惡けんおだとが、排水管はいすいかんのヘドロみたいにこびりついている。もうほんと詰まりかけていて、汚水おうすいが逆流する寸前すんぜんみたいなものだ。

それが、夕美ちゃんと出会つて少しだけ気が楽になつていた。ああ、ここにも似たような人がいた。私と同じだあと思つて、  
③少し慰められていた。  
とんでもなかつた。

ひたすら低レベルなことばかり考えていた自分が恥ずかしかつた。夕美ちゃんにはちゃんとした事情があつた。それもけつこう深刻な……單なる怠け者の私なんかとは、似て非なるものだつた。まさしく □ D だよ……。

自嘲的にそう思つた時、夕美ちゃんが言つた。

「私たちつて、似てるよね」

「どこが」

よりもよつてと、反射的に強い口調で返してしまつた。

「だつて」と夕美ちゃんはほんわか笑う。

「どつちも困つたねぼすけさんだもん。理事長先生が毎朝言つてるよ。お早う、困つた眠り姫ねむひめさんたちつて。私たち、だからセツトにされたんだね」

朝、いつも半分方、いや八割以上は眠つている私は、<sup>⑤</sup>そのセリフを聞いたことがない。

私は全然、姫なんて呼ばれるに相応しい人間じやない。それがぴつたりなのは、夕美ちゃんだけだ。

この人はどうして、こんなにもあつけらかんとしているのだろう？

ふいに、わけのわからぬいぐちやぐちやした感情がこみあげてくる。

「……卒業できなくともいいつて思つてたのに、どうしてここに来たの？ それに……病氣のことで、嫌な思いたくさんしてゐるでしょ？ どうしていつもそんなにニコニコしていられるの？ いつ倒れるかもわからないのに、どうして平氣で歩き回れる

の？　どうして……

気がつくと、なんだか責めるような口調でたて続けにそう尋ねていた。これじやまるで尋問だ。相手は特に気を悪くした風でもなく、「おおつと」と笑う。

「いきなりの質問ラッショ。嬉しいなあ……やつと私に興味持つてくれた？」

「……え？」

「だつて何にも、聞かなかつたでしよう？　あのね、私ね、ずっと前から朝子ちゃんのこと、知つてたよ。教室とか、食堂とかで見かけて、いつも『どうして』って思つてたよ。今、聞いてもいい？　朝子ちゃんはどうして、いつもそんなに哀しそうな顔をしていいの？」

虚を衝かれて、しばらく黙り込んでしまつた。

「……私、哀しそう？」

うん、と夕美ちゃんはうなずく。

「それにね、こないだお散歩で私が倒れた時も、さつきちよつと倒れた時もね、朝子ちゃん、泣きそうな顔してた。びっくり、とか、心配、とかじやなくて、とにかく今にも泣きそうだつたの」

どうして？　と小首を傾げるようになってくる。その瞬間、ぽろりと涙がこぼれた。

なぜ私は泣いている？　どうして？　どうして？

どうして、私は夕美ちゃんが倒れたとき、オロオロと泣きそうになるの？　哀しくて、怖くて、たまらなくなつたの？　目の前で人が倒れたら、怖いのは普通だ。心配するのも。だけど、こんなにも哀しくなるのはどうして？　答えは、自分で知つている。

その理由は、古い古い記憶きおくにあつた。思い出したくもない、<sup>(6)</sup>辛かなくて哀しくて嫌な記憶。

今でもよく、夢に見る。悪夢の種。

「……おばあちゃんがね、倒れたの」

幼稚園の頃の話だ。

一緒に暮らしていた祖母と、二人きりで留守番していたときのこと。

『おばあちゃん、肩かたが痛いたいのよ……歳ねえ……』なんていう祖母の肩を、一生懸命揉んであげたことを覚えている。幼い子どもの力では、ほとんど意味はなかつたろうけれど、祖母はにこにこ笑つて『ああ、気持ちいい』と喜んでくれた。けれど時々、胸のあたりを押おされては、顔をしかめていた。

⑦ この二つのことは、兆候だったのだ……後から思えば、だけど。悪いことの兆しは、なんでもない当たり前のような顔をして、日常の中に紛れ潜んでいる。

二人でソファに坐り、私のお気に入りだつたアニメ映画を見ていた。すると祖母はなぜかふいに立ち上がり、ふらふらと数歩歩いた。

『おばあちゃん、見えないよ』

祖母の身体で視界をふさがれた私は、そう文句を言つた。

返事は、なかつた。

どさりと床に倒れ込んでしまつたのだ。

驚いて覗き込んだ祖母は、とても怖い顔をしていた。おそらく、酷い痛みと苦しみのために。

それも、後から思つたことだ。私の記憶は、ここでいつたん途切れています。

次の場面は、お通夜の席だった。当時の私には、皆が黒い服を着てゐる意味も、正面にある祖母の笑つた顔の写真の意味も、わかつていなかつた。ただ、重苦しい空氣に、不安で押し潰されそつた。

叔母が泣きながら母をなじつていた。

『自分の子でしょ？ どうしてお母さんに押しつけて、遊びに行つてたりしたのよ』

『おいよせよ、晴美。オフクロが言つたんだぞ、親友の結婚式なら絶対出席するべきだ、朝子見といでやるから行つてこいつで』  
『そんなの、お母さんが気を使つたのよ。子供が小さいのだから遠慮するべきだわ。もし家にいてくれてたら、お母さんは……』  
『よせつてば』

父は一応止めてはいるものの、声に力はなく、そして叔母は止まらなかつた。

『だつてそうでしょ？ お母さんが倒れてすぐ、救急車が呼べてたら、お母さん、助かってたんじやないの？ 朝子ちゃんも朝子ちゃんよ。どうしてお母さんを見殺しにするような真似まねができるわけ？』

『幼稚園児相手に何を言つてるんだ』

父の声は少し強くなる。けれどそれに続く叔母の声は、もっと強く大きかつた。

『うちの子なら、近所に助けを呼びに行くくらいできたわ。信じられない。倒れたお母さんの横で、ぐうぐう寝てただなんて！ その言葉は、私を強く打ちのめした。

私のせい？

私のせいで、おばあちゃんはいなくなつてしまつたの？

絶望と恐怖で、世界が真っ黒になつたことを覚えている。逆に言えば、そこまでしか記憶していない。

その時私は、芋虫みたいに丸まつて、そのまま眠つてしまつたらしいのだ。気がついたときには家に帰る車の中で、両親がぼそぼそ会話しているのを目をつぶつたまま聞いていた。

『可哀相に、こんな小さい子供を追い詰めるなんて。大好きなおばあちゃんが亡くなつて、哀しいのはこの子だつて同じなのに。きっと夜も寝られないくらい、苦しんでいたんだわ。いくらなんでも酷すぎるじゃないの』

母が憤慨したように言い、父が『まあ、あいつもいきなり母親を亡くして、動転していたんだよ。許してやつてくれや』となだめるように言つていた。

——あれ以来、晴美叔母さんはとても苦手だ。その後、普通に優しくしてもらつていたにもかかわらず。

親戚の集まりで、特に法事やお葬式で叔母さんに会うたび、当時のことを思い出してしまふから。

そして大学に入つて、気づいたことがある。

私は、嫌なことから逃げるんだ。まるでシャツターを下ろすみたいにすべてを拒絶して、眠りの世界へと逃げ込んでしまふんだ。

朝、起きられないのはきっと、本当に行きたい大学に行けなかつた現実が耐えられないから。

私はとても卑怯で後ろ向きな逃亡者なんだ。

——だから私は、自分の事が大嫌いなの。哀しい顔に見えるんだとしたら、きっとそのせい……』

そう話を締め括りかけて、どきりとした。

夕美ちゃんが、泣いていた。大きな眼にいっぱい涙を溜めて。

その濡れた瞳がふいに泳ぐように揺れ、あつと思う。

今度は、間に合つた。膝が触れ合うような距離で、二人とも床に座つていたから。ふにやりと脱力した夕美ちゃんの身体を、そつと抱き留める。

「あー、また、力が抜けちゃつた」

私の腕の中で、夕美ちゃんはふわあつと笑つた。

「あのね、朝子ちゃん。私、平気じやないよ」

いきなり言つれて反応が追いつけていふると、相手はまた笑つて言葉を足してくれた。

「どうして平氣で歩き回れるのかつて、さつき言つてたでしょ？ 私、平気じやないよ。色んなことが怖いよ。どうしてここに

来たかつて言つたでしょ？ それはね、怖かつたから。学生じやなくて、社会人でもなくて、他の何でもない……そういう状態になつてしまふのが、怖かつたの。この先、どうなつちやうんだろうつて。たぶんみんなも、多かれ少なかれ、そななんじやないのかな？」

「……うん、そうだね」

私だつてそうだ。世間一般的に、たぶん多くの人がそう思うだろう。

何にもなれない。何者でもない。将来どころか、明日明後日のことですら、おぼつかない。

そんな状態になるのは、とても怖いことだ。

だから与えられた猶予期間に飛びついた。<sup>⑨</sup>刑の執行を、少しでも引き延ばすために。

「……それとね、どうしていつもニコニコしているかつて話。あのね、私、感情を揺らしちや駄目でしょ？ だからね、感情を楽しい感じで一定に保つようにがんばっているの。だつてその方が楽しいでしょ？ でもそのニコニコは、偽物なのよ。だつてそうでしょ？」

そう問われ、私は小さくうなずく。確かにそうだ。がんばらなきやならない時点で、その「楽しい」気持ちは本物ではない。「でもね」と夕美ちゃんは続ける。「感情を揺らすなつて、それつて、ブランコに乗つてもいいけど危ないから漕ぐなつて言わ  
れているようなもんじやない？ それじや、意味なくない？ さつき、最初に倒れたとき、朝子ちゃんと話してて、なんだかす  
ごーく楽しかつたの。ああ、楽しいなあつて思つて、気がついたら倒れてた」

笑顔<sup>えがお</sup>を向けられて、なぜだか泣きそうになつた。やつとの事で、一つ小さくうなずく。相手もうなずき返し、

「私ね、すぐに寝ちゃつたり、倒れたりつていう症状自体は高校生のころからあつて、病名の診断<sup>しんたん</sup>がついたのは大学入つてからなんだけど、それからずつと、心を揺らさないよう<sup>に</sup>頑張<sup>がんば</sup>つってきたの。でもね、この寮に入つて朝子ちゃんと同室になつて、私、心が揺れまくりだよ」

「何それ、超危ないじやん。私のせい？」

「そ、朝子ちゃんのせい。だつてすごーく楽しかつたり、突然<sup>とつぜん</sup>、さつきみたひなすごーく哀しい気持ちになつたり、ほんと、搖  
れまくり。でもね。心が揺れるつて、ブランコみたいに楽しいし、気持ちいいし、嬉しいね。だつてそれつて、生きてるつてこ  
とじやない？」

夕美ちゃんはそう締め括り、口を大きく開けて、にかりと笑つた。がんばつてゐるんじやない、本物の笑顔だ。

「——わかった」<sup>⑩</sup>私は覺悟<sup>かくご</sup>を決めて、笑い返した。「そういうことなら、責任持つて私が夕美ちゃんを守つてあげる。こう見  
えても、まあまあ力はあるんだから。私にぴつたり貼り付いて、好きなだけ、思う存分笑つたりびっくりしたり、怒つたり……」

たまには哀しんだりするがいいわ！」

最後はふんぞり返つて言つてやつたら、夕美ちゃんはいたずらっ子のような顔をした。

(加納朋子『カーテンコール!』新潮社より)

問一 空らん  A  B  C に入る最もふさわしい言葉を次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返すことはできません。

ア、ぺたんと イ、くるっと ウ、そつと エ、ぱつりと オ、どさつと カ、ざろりと

問二 ～～線 a 「釈然としない」、～～b 「虚を衝かれて」の意味として最もふさわしいものをそれぞれ次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

a 「釈然としない」

ア、心のわだかまりがなくなる イ、心にわだかまりが残る ウ、意志が強く物事に動じない

エ、意志が弱くあわててしまう

b 「虚を衝かれて」

ア、思つてもいなかつたことに驚いて イ、うそを見抜かれてあせつて ウ、痛いところを突かれて  
エ、本心をかくそうとして

問三 ～～線①「こないだのもそうだったの？ 超危ないじやん」とあります、 「こないだの」の直接の原因は何ですか。次の文の空らんに当てはまる言葉を文章中から五字以上十字以内で探し、抜き出して答えなさい。

) に驚いたから。

問四　——線②「倒れる方は最近ずっとながった」とありますが、「倒れる方」以外の「夕美」の症状を、「（　）」につながるよう、文章中から五字以上十字以内で探し、抜き出して答えなさい。

（　）こと。

問五　空らん **[X]**、**[Y]** に入る同じ漢字一字を答えなさい。

問六　——線③「とんでもなかつた」とありますが、ここで「私」が気づいた「夕美」との違いはどんなことですか。二人を比べる形で説明しなさい。

問七　空らん **[D]** には——線④「似て非なるもの」の同義語が入ります。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、犬と猿　　イ、後の祭り　　ウ、瓜うり二つ　　エ、月とすっぽん　　オ、いたちごっこ

問八　——線⑤「そのセリフ」に当てはまる言葉を文章中から十四字で探し、抜き出して答えなさい。

問九　——線⑥「辛くて哀しくて嫌な記憶」とありますが、この「記憶」に当てはまらないものを次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア、祖母のお通夜の場で叔母に責められたこと。  
イ、祖母が倒れた時に、何もできずに眠つてしまつたこと。  
ウ、叔母の考えに父親が賛同していたこと。  
エ、祖母が目の前で倒れ、亡くなつてしまつたこと。  
オ、母親が自分を祖母に預けて出かけたこと。

問十　——線⑦「この二つのこと」とは何ですか。文章中の表現を用い、次の文の空らんに当てはまる言葉を答えなさい。

おばあちゃんが（ ）こと。

おばあちゃんが（ ）こと。

問十一　——線⑧「ぐうぐう寝てた」とありますが、「私」のこの行為を「叔母」はどうのうにとらえていますか。次の文の空らんに当てはまる言葉を文章中から九字で探し、抜き出して答えなさい。

祖母を（ ）行為。

問十二　——線⑨「刑の執行」とありますが、その内容として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、大学を卒業できないと決まること。  
イ、就職して毎朝起きる生活を始める事。  
ウ、病気の治療と正面から向き合うこと。  
エ、所属する場所がなくなってしまうこと。

問十三　——線⑩「私は覚悟を決めて、笑い返した」について

- (1) 「覚悟」とありますが、どんな「覚悟」ですか。次の文の空らんに当てはまる言葉を文章中から七字以内で探し、抜き出して答えなさい。

「私」のせいで「夕美」が（ ）ことになつて倒れても守つてあげようという覚悟。

- (2) (1)のような「覚悟」ができたのはなぜですか。※印のセリフを参考にし、このセリフの前と後で「夕美」が倒れるこ<sup>ト</sup>について「私」のどちら方がどう変わったかを明らかにして説明しなさい。

國語(一)

## 国語(二)

三

(2) **問十三(1)**

**問十一**

**問十**

**問九**

**問七**

**問六**

**問四**

**問三**

**問一**

**問二**

**問五**

**問八**

**問十二**

問十三(2)

問一  
A  
B  
C

問二  
a  
b

受験番号

--	--	--

氏名

--